

2010年8月9日

平成22年度山形大学
基礎教育ワークショップに参加して

教育開発支援機構
FD推進センター長 川上 忠重

第12回 平成22年度 山形大学教員
研修会 基礎教育ワークショップが、平成
22年8月6日（金）に山形大学小白川キ
ャンパスで開催された。本ワークショップ
は、学士課程教育におけるFDが義務化され
た現在、大学教育の質向上が以前にも増し
て求められているのに伴い、大学教育の発
展を目的とし、相互研鑽の理念の下、「FD
ネットワーク“つばさ”」をはじめとした多
くの教職員との議論の場となっている。

山形大学の結城章夫学長の挨拶の後、第
1部は講演会として、「教育から学習へ：高
等教育のパラダイム転換」を演題とし、神
戸大学 川嶋太津夫教授からご講演をいた
だいた。大学を取り巻く環境の変化、21
世紀の学士像の話から始まり、Idea
UniversityのNewman教授の「大学は、研
究所ではない！なぜなら、学生がいるか
ら！！！」を引用し、大学教員としての役
割、大学の在り方、また、21世紀の大学
教育を考えるうえで、知識の獲得から知識
の活用の重要性、学士に求められる専門教
育、教養教育およびキャリア教育の balan
スの話が紹介された。高等教育のパラダイ
ムシフトでは、大学の使命と目的のシフト
事項として、授業の提供→学習の生産、教
員から学生へ知識の移転→学生の発見と知
識構成の誘発、教育の質向上→学習の質の
改善等、アウトカム重視のアプローチと学

習者（学生）中心の大学教育について、ア
クティブラーニングや経験学習モデルを用
いて解説がされ、今後の大学教育の1つの
指針を得ることができた。

第2部は、3つの分科会に分かれて、ラ
ウンドテーブルが開催された。各分科会の
テーマは、第1分科会：「基礎教育における
科学教育」、第2分科会：「初年次導入科目
の成果と課題」、第3分科会「学生主体型授
業の冒険」である。今回は、第3分科会に
参加し、山形大学の杉原真晃准教授、酒井
俊典助教、小田隆治教授の学生主体型授業
の事例紹介の後、第3分科会を5グループ
に分けて、参加者の授業実践紹介、現在の
授業で困っている点、学生の主体性を引き
出すための「学び」の工夫点等を各人紹介
し、グループごとの取り纏め発表が行われ
た。特に、教員と事務職員との教育に関す
る係り合い、教員の負担増、学生の基礎学
力向上のための改善手法等、各大学の教職
員が共通して抱えている問題も数多く指摘
され、あらためてFD連携組織の重要性を感
じた。

本学においても、より主体的・能動的な
学習機会をいかに適切に提供するかについ
て、各教学単位と連携・協力しながら、情
報提供を行っていきたい。

以上